



発行所

〒921-8116

金沢市泉野出町3丁目10-10

石川県立金沢泉丘高校内

一泉同窓会

電話 (076) 242-0211

FAX (076) 242-0211

2004. 6. 1. 発行

E-mail: issen_knz@hotmail.com



バス・ピアノ・トレーニング機器寄贈

一泉創立110周年記念事業、成功裡に

平成15年は、金沢一中・泉丘高校の一泉創立110周年にあたり、同窓会会員諸氏に記念事業へのご支援ご寄付を呼び掛けたところ、多数の会員が快く賛同、趣旨に応じて下さいました。お陰様で当初予定を大幅に上回る御芳志が寄せられ、一泉同窓会では学校側と相談協議し、「久遠」像、マイクロバス1台、トレーニング機器一式、グランドピアノ2基ほかを母校に寄贈し、後輩たちの学びの環境の充実に寄与できました。同窓生各位の多大なご協力に感謝し、記念事業記念式典等につき下記の通りご報告します。

記念行事(2003年10月15日)

(1) マイクロバス披露

寄贈者代表 副会長蔵田武男(泉丘9期)

(2) 「久遠」像除幕式

・原作 木村珪二(一中29期)

・題字 谷本正憲石川県知事

寄贈者代表 副会長水谷昭(泉丘7期)

本校に同氏の「逆流」『練成』そして「久遠」三部作が揃うことになる。

(3) 校歌時絵扇額披露

・書 水田清風(本校元教諭)

・制作 高名光夫(漆芸作家)

寄贈者 平成14年・15年度卒業生

(4) ピアノ披露・演奏

寄贈者代表 副会長水谷昭

・演奏 鶴見 彩(泉丘44期)

(5) トレーニング機器披露

寄贈者代表 副会長荒磯千舟(泉丘18期)

※各披露・式典時演奏 合唱部・ブラスバンド部

校歌 百周年記念歌「明日の愛」

祝歌「There rolls the Deep」

※野点 茶道部

記念式典(於啓泉講堂)

○学校長式辞 新村健了校長

○実行委員長挨拶 小倉周一郎会長(泉丘7期)

代理 水谷昭副会長

○谷本正憲石川県知事

代理 寺西盛雄出納長(泉丘10期)



「知性、感性、創造性を涵養し、高き志を持ち人間性を陶冶し、新しい時代のリーダーとして、逞しく成長してほしい」

○向出勉石川県議会議長

代理 木本利夫県会議員（泉丘16期）

「大学と連携して SSH、SH としてハイレベルの先端テクノロジーを勉強しているが、心身共に鍛えて世界に羽ばたく人材に育ってほしい」

○桑原豊衆議院議員（泉丘16期）

「力をつけ、負けじ魂を発揮して、嵐に向かい逆流を越えて、いきつつある時代を生きよう」

○奥田建衆議院議員（泉丘29期）

「マイノリティは未来のために、マジョリティは現在のためにある。正しいマイノリティは必ず未来を拓く。未来を作る人材に育ってほしい」



○記念事業披露 蔵田武男副会長

○感謝状贈呈 歴代校長

代表 小西優第13代校長（泉丘5期）

○永年勤続表彰 10年以上在籍教職員

代表 梶本逸子元教諭

○生徒代表の感謝の言葉

○生徒会長灰田さち（2年生）

「久遠の理想に向かって進み、ヤルトキハヤリマス」と決意を述べた。

記念講演

光半導体の開発研究で我国の先駆となった岩手県立大学学長・西澤潤一氏の「未見の我を発見する」の講演が行われた。

物故者慰霊祭



一泉110周年記念事業支出明細（事業費総額 27,022,592円）

事業名	金額	備考
久遠像－木村珪二作（一中29期） 中庭生徒玄関前設置	3,030,000	鑄造高岡老子製作所・かわの徽章堂 台座揮毫－谷本正憲・石浦碩雲筆
遠征用バス・付帯設備・保険料	5,900,000	石川日産自動車販売 29人乗り
グランドピアノ2台（講堂用・音楽教室用）	4,350,000	開進堂・松木屋、演奏者謝礼
トレーニングマシン一式（トレーニング室）	3,698,310	ニシナガスーツ
スーパー・サイエンス・ハイスクール助成 パソコン・プリンター・書籍（SSH室）	535,359	石川コンピューターセンター 宇都宮書店
空調設備 SSH室2基 コンピューターサーバー室1基	3,254,475	北菱電興
御園柵他道具（茶道部用）	181,303	米沢茶店
コンピューター3台・付帯機器 「鏡花全集」全28巻別巻1（図書館閲覧室）	411,135	オフィス13五井 リード書店
泉丘校章旗3流作成（講堂掲揚） 一泉のぼり修理（慰霊祭用）	66,780	池田染色 平木屋
マークリーダー・マークテスト自動採点機（進学指導室）	1,087,800	教育ソフトウェア
合唱部第一回（110周年記念）演奏会助成	300,000	県立音楽堂
いずみの原縮刷版（近10年分・1500冊）	806,100	三友印刷出版
通信制授業用パネル3台	163,800	タマイ文具
記念タオル「心身一如」（大500本、小3000本）	1,417,500	大和百貨店・しろき屋タオル
式典・銅像序幕準備・一文字	303,345	バードセンター加藤・美研デザイン工房
記念事業式典・事業記録アルバム・ビデオ製作	322,000	現代写真スタジオ・東洋写真館
新聞広告10月15日分	78,750	一創（北国新聞）
為替料	3,255	
雑費	14,219	
「一泉31号」14・15年度合併・記念事業報告	500,000	印刷・橋本確文堂
「一泉31号」郵送費	500,000	募金協力者全員に送付
学校図書館および一泉文庫書籍購入	98,461	
合計	27,022,592	

一泉創立110周年記念事業募金額報告 (募金総額 24,305,600円)

2004、4

区分期	募金額	円	個人	期	区分期	募金額	円	個人	期	区分期	募金額	円	個人	期
旧現教職員	1,057,000		○	◎	泉丘14	603,000		○		通信4	3,000		○	
一中29	3,000		○		泉丘15	576,000		○		通信5	6,000		○	
一中33	33,000		○		泉丘16	569,000		○		通信6	6,000		○	
一中35	3,000		○		泉丘17	528,000		○		通信7	3,000		○	
一中36	9,000		○		泉丘18	961,000		○		通信8	15,000		○	
一中37	12,000		○		泉丘19	545,000		○		通信9	27,000		○	
一中38	24,000		○		泉丘20	604,000		○	◎	通信10	48,000		○	
一中39	58,000		○	◎	泉丘21	422,000		○	◎	通信11	9,000		○	
一中40	47,000		○		泉丘22	454,000		○		通信12	66,000		○	
一中41	27,000		○		泉丘23	318,000		○		通信13	3,000		○	
一中42	137,000		○	◎	泉丘24	301,000		○		通信14	9,000		○	
一中43	139,000		○		泉丘25	348,000		○		通信15	30,000		○	
一中44	83,000		○		泉丘26	267,000		○		通信16	33,000		○	
一中45	106,000		○	◎	泉丘27	368,000		○		通信17	15,000		○	
一中46	278,000		○	◎	泉丘28	366,000		○		通信18	12,000		○	
一中47	78,000		○	◎	泉丘29	423,000		○	◎	通信19	30,000		○	
一中48	296,000		○	◎	泉丘30	459,000		○	◎	通信20	15,000		○	
一中49	134,000		○	◎	泉丘31	331,000		○		通信21	18,000		○	
一中50	210,000		○		泉丘32	252,000		○		通信22	21,000		○	
一中51	168,000		○		泉丘33	295,000		○		通信23	9,000		○	
一中52	259,000		○		泉丘34	228,100		○		通信24	3,000		○	
一中53	227,000		○	◎	泉丘35	258,000		○		通信25	15,000		○	
一中54	346,000		○		泉丘36	243,000		○		通信26	27,000		○	
一中55	306,000		○	◎	泉丘37	240,000		○		通信27	9,000		○	
一中56	183,000		○		泉丘38	179,000		○		通信28	36,000		○	
一中57	299,000		○		泉丘39	160,000		○		通信29	6,000		○	
一中58	90,000		○		泉丘40	142,000		○		通信30	9,000		○	
一高1	135,000		○		泉丘41	172,000		○		通信31	3,000		○	
泉丘2	180,000		○	◎	泉丘42	174,000		○		通信32	12,000		○	
泉丘3	211,000		○		泉丘43	135,000		○		通信33	12,000		○	
泉丘4	587,000		○		泉丘44	144,000		○		通信34	12,000		○	
泉丘5	577,500		○		泉丘45	141,000		○		通信35	15,000		○	
泉丘6	440,000		○		泉丘46	118,000		○		通信36	10,000		○	
泉丘7	1,147,000		○		泉丘47	90,000		○		通信37	12,000		○	
泉丘8	767,000		○		泉丘48	138,000		○		通信38	12,000		○	
泉丘9	281,000		○	◎	泉丘49	63,000		○		通信39	18,000		○	
泉丘10	436,000		○	◎	泉丘50	117,000		○		通信40	12,000		○	
泉丘11	235,000		○	◎	泉丘51	72,000		○		通信41	18,000		○	
泉丘12	738,000		○		泉丘52	117,000		○		通信42	14,000		○	
泉丘13	766,000		○		泉丘53	93,000		○		通信43	42,000		○	
					泉丘54	165,000		○		通信44	6,000		○	
					泉丘55	264,000		○		通信45	39,000		○	
											募金総計	24,305,600		

※個人募金の人数は5,199人。募金額は21,462,600円 (30万円・20万円各1人、10万円4人)

期募金は18の期。募金額は2,843,000円 (3万円～30万円) 合計24,305,600円

※バス買い替え積立金2,716,992円 (100周年以降「一泉基金」より毎年30万円)。事業費総額27,022,592円

母 校 の 現 況

○SSH (super science high—school) 指定

2003年度、泉丘高校は文科省から全国26校の一つとして指定され、必要経費に予算が下りる。対象は理数科生で、従来の実験観察を柱にした「課題研究」を本格化し、土・日や休業中を活用し、大学教官らに研究内容・過程・発表について指導を受け、英文で論文を書けるところまで進む。

一方、従来のカリキュラムを改編し、家庭・保健・生物の重複部分を削り、先端科学分野を導入統合した「人間科学」、数物理学を融合した「コスモサイエンス」を学ぶ。これらの新科目課程は泉丘高校の教諭が原案を作成し、3年間をめどに実施する。

○SSH 特別授業

お茶の水大助教授 横川光司氏 (泉丘34期)

2004. 1. 19理数科1年生を対象に行われた。

題は「直角三角形と素数」古代ギリシャのピタゴラスから始まり、近代のガウスやフェルマの迷路を走り回っているうちにあっと驚く不思議簡明な結論になった。これが数学の「美しさ」「におい」なのか。数学のたのしさを後輩たちに熱っぽく語った。

横川氏は理数科出身。京大の修士課程、阪大助



手を経て現職についた気鋭の数学者。優れた数学者を輩出した金沢一中の伝統を継ぐ一人。

○普通科の男子女子生徒数逆転

16年度普通科新入生数は女子161、男子159名。金沢泉丘高校の普通科の女子数が男子を上回るのは、昭和24年に共学・総合・小学区制の三原則で新制高校が発足以来初めて。

今や、女子が理工学系学部へ積極的に進出していく時代。将来の職業への意欲も同様である。平成16年3月の卒業式での送辞と答辞とも女子であった。

○土曜エクステンションスクール

学級崩壊、荒れる若者、不登校という実態にたいし、文科省は学校週5日制と「ゆとり教育」を制度化した。ところが逆に学力低下、学習必修事項欠落という矛盾を生み出し、制度の改編と多様化を迫られている。泉丘高校でも、2002年度から土曜エクステンションスクール構想を打ち出した。1、2年生は英語・数学・国語3時間、4限目は理科の実験、ネイティブによる英会話、3年生は受験科目対象に4時間実施。

生徒の出席率は高く効果的な学習をやれるが、公的な制度ではないだけに、先生方のボランティアで実施している次第。

なお、2004年度より、泉丘高校は月・火・水は午後4時まで7限授業をする。木は7限目ロングホーム、金曜のみが6限で放課となる。

平成14年度一泉同窓会総会懇親会 和やかに

平成14年度の一泉同窓会の総会と懇親会は、10月15日、午後6時からホテル日航金沢で行われ、順調な議事進行のあと盛大かつ和やかな歓談のひとときとなった。

小倉周一郎会長（泉丘7期）の挨拶、新村健了校長の母校近況報告、正村健三事務局長（一中58・泉丘4期）の一泉同窓会・一泉基金収支決算と事業等経過報告、監査報告がなされ、いずれも満場拍手で可決承認された。

当日の参加者は、近年の平均400人をはるかに上回る653名（申込702名）という大人数を記録し、金沢最大の宴会スペース（テーブル方式）を誇る同ホテルでも稀な大規模な集いとなった。

引き続いての懇親会も、和やかな雰囲気の中で進められ、アトラクションには金沢主計町の芸妓らによる素囃子（三味線、小鼓、太鼓、笛）で張りのある名調子が披露され、会場を盛り上げた。

やがて例年のごとく全員が肩を組み合っの校歌・応援歌の合唱に、同窓会の雰囲気は一段と高まり、午後9時、普神貴行副会長（一中56・泉丘



2期）が閉会の挨拶。一泉同窓会の益々の発展と会員の健勝を祈念してめでたく解散となった。

14年度幹事期の21、22、30、40期の皆様、ご苦勞様でした。

<物故者慰霊祭>

例年10月15日と決められているこの日、午後3時から校舎前庭の巖霜碑前で行われ、石浦神社・長谷勝俊宮司の司祭で、小倉会長、新村校長、教頭、教職員、同窓会年度幹事期関係者ら有志多数が参列して物故会員のご冥福を祈った。

【関東一泉同窓会総会・懇親会】

2002. 10. 4（金）青山ダイヤモンドホール
金沢からは新村校長、普神貴行、水谷昭副会長（泉丘7期）、正村事務局長、一中45期石崎皓三代表、泉丘23期宮地治代表が出席。出席数は久しぶりに250人を越えた。Email という新兵器を駆使しての幹事期の努力で、例年より2倍の集まりとなった。

河毛二郎会長（一中43期）をはじめ80歳を越える先輩の元気なお姿が多く見えた。また、学生の参加も多く、故郷を離れての同窓会が一段と活気を帯びて和やかだった。懇親会の後半は、期別のテーブル割りを解消、老若の混合チームに編成し、折からの大河ドラマ「利家とまつ」ブームにちなむ「戦国ゲーム」で互いに世代間の交流をはかった。大型の景品に満足して散会。23期の幹事の皆さま



らご苦勞さまでした。

【協賛企業】

王子製紙 大和 宮本酒造 中村酒造 車多酒造
清風荘 宇野甘源堂 天狗中田産業
いずみや兄弟商店 能作 宮本産業
四十万谷本舗 山崎太可堂
サンケイスポーツ新聞社 早稲田不動産研究所
トータルフォトスタジオ斉藤 清水建設
日立ハイブラン 不二貿易 東洋のパイプ人
俳優西田圭（泉丘22期） 中央都市鑑定

【関西一泉同窓会総会・懇親会】

2002. 6. 1（土）午後2：30より

大阪駅構内ホテルグランヴィア大阪、来賓5人、会員120人余出席で、久しぶりに100人を越えたのは、幹事の皆さんのご努力と地の利の良さか。乳母車を引いた若夫婦もあり和気藹々の雰囲気。元書道教諭の水田清風氏は「還暦からようやく20歳を越したところだ」とお元気いっぱい、金沢から持参された色紙には希望者殺到。

司会是一中54期の宮崎欣彌氏と泉丘8期の山口煦子さんの名コンビネーションでスムーズに進行、長時間にわたって頭の下がるお仕事でした。

元地事務局長さんほか幹事の皆さんご苦勞様。

平成15年度一泉同窓会総会一泉創立110周年を記念し盛大に

金沢一中・泉丘高校同窓会、一泉の創立110周年記念「一泉同窓会」の平成15年度総会ならびに懇親会は、例年にならって10月15日、金沢全日空ホテル鳳の間に800余名を集めて盛大に開催された。

総会に先立ち午後3時から、**物故者慰霊祭**を泉丘校舎前庭の巖霜碑前で執り行ない、同窓会役員、会員有志、学校教職員ら多数が参列して物故者のご冥福を祈った。

午後6時からの総会では、所用のため欠席の小倉会長に代わり普神副会長のあいさつ、新村校長の近況報告、水谷副会長の経過報告、正村事務局長の会計報告と続き、110周年の節目を迎えた同窓会と母校の今後いっそうの発展を祈った。

アトラクションや校歌大合唱で交歓

懇親会は、出席最長老の一中43期の竹村松男氏の乾杯音頭で始まり、お互いが遠い十代の昔に返り、懐かしい思い出話や近況を語り合う和やかな交歓のひとつとなった。

アトラクションは「にし」の名妓による鼓と笛の「一調一管」が披露された。鼓の乃莉さん（中野範子・泉丘5期）は金沢市無形文化財。

やがて広瀬靖久氏（泉丘16期）ら往年甲子園で旗を振った応援団OBが壇上で力強く発声、恒例の全員肩を組んでの校歌大合唱に雰囲気も最高潮となった。

最後は蔵田武男副会長（泉丘9期）の万歳三唱で会を締めくくり、来年の再会を期して散会となった。

幹事期の22期、23期、31期、41期の皆さん、ご苦勞様でした。2004年度は「金沢全日空ホテル」で開催され、幹事期は、23期、24期、32期、42期の方々。よろしくお願いします。



【関東一泉同窓会総会・懇親会】

2003. 10. 6（金）一ツ橋如水会館、昨年に引き続き250余名出席、金沢から新村健了校長、普神・水谷副会長、正村事務局長、関西から亀田広（泉丘2期）代表が出席。

一中で書道を教えられた氷田光風氏が車椅子で元気に参加された。氏は泉丘の元書道教諭清風氏の兄である。オーケストラ・アンサンブル金沢の監督・岩城宏之氏（一中57期）も出席され旧交を温めた。OAKの東京公演は定着しつつあり、関東地区の一泉会員の一層の支援を期待したい。幹事期24期が、ひと夏かけて苦勞して制作したスライド「泉路は続くよ一すじに」を上映、懐かしさを誘った。後半、アトラクション「栄冠は君に輝く」では別テーブル割りを解消、異世代間の交流をはかる混合テーブルゲームで楽しさを倍增、加賀名産ミヤゲをもらって解散。

幹事の皆さんご苦勞さまでした。

【協賛企業】

大和 中村酒造 宮本酒造店 車多酒造
宇野甘源堂 能作 いずみや兄弟商店
天狗中田産業 吉田酒造店 宮地組

【関西一泉同窓会総会・懇親会】

2003. 6. 7（土）午後2：30より大阪駅構内ホテルグランヴィア大阪、来賓5人、会員出席107人、会長片瀬貴文（一中55期）氏は昭和30年代国鉄マンとして、東海道新幹線の設計に携わった人。40年代後半、フランス国鉄への留学や、アフリカの新興国ザイールの鉄道局長も体験した国際人。『おやじが歩いた地球』という著書がある。

氏の下で関西一泉総会は変わらず活気に満ちている。新村校長の学校の現況と展望報告、水谷副会長の110周年記念事業計画説明があった。恩師招待では、金石の「銭五の館」鍋木悠紀夫館長のお話があった。

元地事務局長さん、幹事の皆さんご苦勞様。



【第20回松任一泉同窓会】

平成14年11月30日、グランドホテル松任、出席一中7名、泉丘50名、来賓は新村校長、水谷副会長、正村事務局長、選挙戦中でやや集まりが悪かった。福住孝副会長（一中57期）が代表あいさつ。

松任市は現在の人口6万6千人でナナオなどのハイテク企業、金沢周辺の機械メーカー津田駒などの製造拠点移転、国道筋の集客力の強い大規模店舗の立地で、数少ない膨張中の都市である。それを反映しているのであろう、松任在住ではないが松任エリア銀行支店や、市役所勤務の若手たちが学生時代と変わらぬ元気をを見せていた。恩師、英語の新村先生と話しが弾む。

【第2回鶴来一泉同窓会】

平成14年4月12日、鶴来町レッツホール、出席会員60余名で、昔からの地元の人が多く出席率が高い。徳田寿秋石川県歴史博物館館長（泉丘12期・前校長）が「泉丘高の今」と題して勉学と課外活動に励む母校の現況を紹介、その後懇親に入った。

【平成14年度三馬一泉同志会】

6月16日、6時より金沢グランドホテルに25名集まる。今年は杉村靖夫氏（一中58・泉丘4期）による、「石川県の姿」と題し、分野別71項目について石川県と全都道府県との比較説明があった。

石川県民一人当たり所得は、全国15位と高い方だが、ごみ排出量は34位と悪い方。出席者一同、興味深く傾聴。複合不況・デフレ不況と経済停滞が続いているが、石川県はましな方だったかと妙なところで感心。懇親会後半、一中先輩の山本素生（53期）・山本道生（54期）の両氏が一中応援歌全集を歌う。運動部部歌に至っては泉丘後輩はほとんど知らなかったが、これを機に覚えたい。

幹事 北島敏雄（泉丘8期）記

【第21回松任一泉同窓会】

平成15年11月7日、グランドホテル松任、出席67名、一中8名、泉丘59名、泉丘の若手の多いのが特色、白山市構想が進み、日本海から白山頂上までの広大な地域が一つに統合すれば、松任はその中核になる。松任外の美川などへ声をかけてもよいのではないか。

110周年事業での御礼を兼ねて新村校長、水谷副会長が挨拶。宴後半のビンゴゲームでは松任グランドホテル宿泊券10人分が出た。料



理が美味でグレードの高いホテルだけに一同満足、和気藹々で過ごし、散会。

【野々市一泉同窓会総会・懇親会】

一新会長に魚野孝次郎（泉丘5期）氏選出—
一昨年再興した野々市一泉同窓会、平成15年度総会並びに懇親会が、70名余の出席を得て6月14日（土）野々市文化会館フォルテで開催された。小西芳夫（一中53期）会長の病氣事由による辞意を受け新会長選出が急務であった。

魚野孝次郎氏が満場の賛成で新会長に選任され挨拶。今や555名の会員数となる本会成立時以来の経緯、運営についてと、懇親の和の一層の高揚に向けての熱い意中を語った。

次に新村健了校長の学校の現況、特にSSHへ向けての取組報告があり、一同傾聴。新時代の母校がどう発展していくかを思う場となった。



中田久実子（泉丘22期）記

【平成15年度三馬一泉同志会】

6月19日、6時半より金沢グランドホテルにて、25名出席。新会長に杉村靖夫氏を選出。新会長は一中最後の入学生で、泉丘は4期生という端境期のOB。昭和23年に旧制が新制に切り替わった年、旧制中学の3年生として、金沢市立工業高校に併設された学年に一中生4クラス全員が預けられ、市立工業生としてのアイデンティティを押し付けられたという経緯がある。自己紹介にその話をしてもだれもよく分らなかったようである。

講話は中警察署元署長園井敏弘氏（泉丘13期）「最近の犯罪の傾向と防犯あれこれ」で空き巣撃退や、放火の話。次に正村事務局長が、創立110周年記念事業の一つとして設立する「久遠像」の趣旨について説明。懇親会は、少人数ながらカラオケも出て、にぎやかで和やかであった。若いメンバーがいなのは残念。



おめでとう！「一泉賞」(第9回、第10回) 受賞は次の皆さん

一中の「文武両道」と、泉丘の「心身一如の発達につとめる」の校是に添い、一泉創立100周年の翌年、1994年度に一泉基金事業の一つとして発足した「一泉賞」。同賞は在学3年間を通じて学習と課外授業を両立させた生徒を対象に選考を行い、各人の活躍を称えて贈られる。

〈第9回(平成14年度)一泉賞〉

平成14年度一泉賞は次の5人に贈られた。賞状、トロフィ、図書券を卒業式に先立って小倉周一郎会長から各人に渡した。

〔全日制〕

- 小木祐二** 第38回全国高校将棋選手権・チーム第4位、大将
伊藤康広 第38回全国高校将棋選手権・チーム第4位
野崎亮二 平成13年度国民体育大会少年男子水泳400mリレー団体4位
浜上洋平 平成14年度全国高校総合体育大会・水泳200m個人メドレー7位

〔通信制〕

- 宮根喜代子** 授業態度、学校行事参加などすべての分野において他の模範となった。

〈第10回(平成15年度)一泉賞〉

平成15年度一泉賞は次の5人、合唱部に贈られた。卒業式に先立って賞状、トロフィ、図書券を同窓会会長から各人に渡した。

〔全日制〕

- 小崎順平** 平成15年度国民体育大会・水泳100m自由形3位、平成15年度夏季全国JO・水泳50m自由形1位
横田健治・加藤智博・松山敏也 平成14年度第46回日本学生科学賞 環境大臣賞
 「銀のリサイクルと江戸時代の写真術」
合唱部 第56回全日本合唱コンクール銀賞
 本校の全日本大会進出は初めて。

〔通信制〕

- 通善智恵子** (七尾サテライト校3年) 平成15年度全国高校定時制通信制陸上競技大会優勝

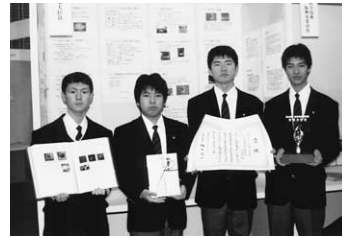
「科学学校泉丘」復活か

泉丘高校化学部は、平成14年12月、第46回日本学生科学賞環境大臣賞を受賞した。33年ぶりに石川県知事賞を経て、中央審査に進出、大臣賞は、本県では初受賞。

泉丘高校化学部は1958～71年の間、全国入賞15点、最高の特賞は3回得ている。当時は生物・物理・地学の諸部は競って実験やフィールドワーク

に参加し、「科学学校泉丘」を自称した。再び近年、化学部の全国水準での活躍が続いており、過去の最盛期の復活を思わせる。

今回の受賞の



第46回日本学生科学賞受賞の
化学部員

内容は、大量の銀固定廃棄物をもらい受け、銀および硝酸銀を再生し、それを再利用、江戸時代の「湿板写真」を3年がかりで再現したもの。

○「社会人と語る会」

02年9月26日、啓泉講堂、対象1年生

パネラー和布浦将司(泉丘32期・北国新聞政治部長)、小原繁(泉丘30期・株式会社オハラ社長)、

至極明子(泉丘34期・北陸日本電気ソフトウェア)、谷口巧(泉丘36期・金沢大学大学院医学系研究科助教授)、コーディネーター塩田憲司

(泉丘32期・本校教諭)



03年10月29日 啓泉講堂、対象1年生

パネラー湯沢邦太郎(泉丘30期・金沢信用金庫業務開発部)、角野達洋(泉丘36期・北陸放送株式会社アナウンサー)、茂真希(泉丘40期・北陸日本電気ソフトウェア)、荒木友希子(泉丘44期・金沢大学社会環境科学研究科助手)、コーディネーター高倉英明(泉丘37期・本校教諭)

桜 美 会

一泉会員の出品・加入をお待ちします。

桜美会は、昭和2年から40年まで、長年にわたり金沢一中・泉丘高校で美術を教えられ、教え子に慕われた故宮沢外与治氏を中心として結成された。かつては截金細工の人間国宝西出大三氏(一中39期)や、同じく人間国宝の刀剣家隅谷正峯氏(一中45期)を擁した。現在は年間行事としてスケッチ旅行、2回的小品展、桜美会展を開いている。

会員数205人。洋画、日本画、水墨画、工芸(陶芸・染色など)、書、俳句、写真と分野は広い。

連絡先・桜美会事務局

〒921-8034 金沢市泉野町3-13-25

藤井肇(桜美会会長・泉丘4期)

TEL076-241-3641・FAX076-241-7303

〈第30回桜美会美術展〉平成14年9月25～29日

・石川県立音楽堂交流ホール

第30回桜美会美術展を記念して小松嘯一氏（一中57・泉丘3期・前金沢美術工芸大教授・現卯辰山工芸工房所長）より「郷土の美術工芸」と題し、加賀藩の伝統工芸の歴史についての講演があった。

出展は新旧職員、OB遺作、OB作品は一中25点、泉丘42点、現役の泉丘生徒の書と洋画の出品もあった。

〈第31回桜美会美術展〉平成15年9月8～12日

・石川県立音楽堂交流ホール

洋画38点、日本画、水墨画6点、工芸6点
書10点、写真9点。

ピカソの「ゲルニカ」を想起させる藤井肇氏のイラク戦争「こんなにまで」が目を引いた。現役生徒の書・絵も出品されていた。思わず足をとめるような優れた作品がある。優れた芸術の資質を持っているのだろう。



〈スケッチ旅行「白山を描く」とスケッチ展〉

・スケッチ旅行は、平成14年10月19～20日。白山望岳館に宿泊。講師は井田重男氏。

・スケッチ・写真展は12月3～15日。石川県国際交流サロン、井田重男「霊峰白山を仰ぐ」他9点。

・長年泉丘高で美術を教えられた井田氏は、白山を描いては、かつての玉井敬泉氏を継ぐ画家。この元気な井田氏が15年3月、急逝された。会員一同の失望はかくせない。



〈第26回桜美会小品展〉平成14年5月9～14日

・エルフ金沢ギャラリー

一中20点、泉丘20点、旧現教職員3点。

〈第27回桜美会小品展〉平成15年5月14～20日

・石川県国際交流サロン

氷田清風氏の書、犀星の詩「杏」は古い北陸らしいシンと静まり返った朱漆の梁と白漆喰の土蔵の中で、時と所を得た雰囲気をももたしていた。一中18点、泉丘22点。

〈一泉桜美会友行展〉平成16年2月18～24日

・アートシアターいしかわサロン 19点

宮沢先生がお元気な頃、手取ダム建設で水没予

定の旧桑島村へ、桜美会の面々とスケッチ旅行をされた。寺内良雄氏（一中46期）は長年、その折の先生の作品を所蔵していたが、このたび、鶴来に移住した新桑島町へ寄贈して喜ばれた。同作品も展示され、来場者の目を引いた。



〈文化・運動部 OB 会〉

《泉泳会》

金沢一中・泉丘水泳部 OB 会は2年毎に、8月中旬プールサイド同窓会を開く。往年精強を誇った部だけに、日本マスターズ水泳選手権覇者もあり、今年は24人が参加、すいか渡しリレー、50m 1分競争や、古式泳法など若さと老練さ交互の競技を楽しんだ。会員数349名。会長は林繁夫氏（一中44期）から向川勇氏（金沢一高）へバトンタッチ。毎年、水泳部へ激励の金一封を渡している。



《一泉剣友会》

全国に精強を誇った金沢一中時代の高齢の先輩も参加する。会員数451名、連合軍占領下の剣道禁止時代の泉丘2～6期時代は会員欠落、会長は高川義一氏（一中53期）。毎年学校道場での稽古会、総会、講演会を開催する。

○平成15年度〈一泉創立110周年記念事業〉

記念講演：『山岡鉄舟と無刀流』押田弘光氏。

寄贈：剣道衣男女各7着・強化費35万円。

国体出場選手の激励と激励費。

懇親会：金沢スカイホテル、記念手拭と会員名簿作成。



《ハンドボール OB 会》

毎年、8月中旬母校体育館で汗を流した後、懇親会を開催する。現役の頃から自立性があり、自治的な気風が強かっただけに、活気あるフリーな集まり。子供づれの母親も参加する和気藹々の雰

囲気。会員数401名。

《サッカー OB 会》

会員数624名。

現在は泉丘高校で数学を教えられた白尾龍之介氏の白尾語録に残る言葉の下で育った泉丘20期代の元選手たちを中心に集まり、8月中旬運動場で汗を流す。80歳に近い白尾氏もちろん参加。

《バレーボール OB 会》

一中・一高・泉丘の男女で750人を越える。

平成15年は5年ぶりの集まり、8月14日午後1～4時半まで、泉丘高校第一体育館で9人制、6人制、ソフトバレーに別れ、体力に応じて、競技を楽しむ。6時からニュージーランドで懇親会。現役バレーボール部には折に触れて金一封を渡している。



《陸上競技部 OB 会》

会長木本利夫氏（泉丘16期）会員数546名。

平成15年度総会、9月27日（土）、金沢ニュージーランドホテル、35人出席。その年度の現役選手の、県陸上選手権、高校総体、新人戦等での活躍をビデオ映像にて報告するのが恒例。懇親が始まるとそれぞれ立ち上がり自分を語る。

OB会として母校陸上部へ激励の金一封を贈っている。

《野球部 OB 会》

総会は8月中旬、2年毎に、元県立野球場があった厚生年金会館で開催される。出席者は30人前後。夏の予選の時には、山本道生会長（一中54期）山本勝巳事務局長（泉丘39期）をはじめOB多数が練習見学や球場応援をする。また、予選前には激励費金一封をおくる。

《一泉弓道部 OB 会》

70才代半ば以上と20才半ば以下だけという年令構成が特異なOB会。金沢一中弓道部OBの石田直行氏（一中49期）、山形周一郎氏（一中50期）らの熱意と努力によって、泉丘高校に弓道部と弓道場が復活したからである。一中OBたちが手塩にかけて育てた若手が、社会人となって後輩の指導にあたっている。

会誌を年2度発行し、現役を交えた射会と、総会を開く。

《バスケット OB 会》

人数で言えば、800を越える最大のOB会。数年に1度総会開催。母校在任期間が長かった高橋威氏（泉丘10期）を核にしたOBの結束力も強い。

《一泉柔道部 OB 会》

会長頭川潔（泉丘10期）、事務局雲野照正（泉丘25期）。OB会の結成は平成10年、不定期に総会を開く。

《音楽・合唱部 OB 会》

本校音楽教諭の安藤芳亮氏（在任1949～66年）は、校歌や部歌「歌の友垣」を作曲された。指導を受けた音楽部員の集いがOB会のはじまり。03年、泉丘合唱部が全国大会に初出場。OB会は森皖氏（泉丘5期・県合唱連盟理事長）が中心となり、福岡で開催の全国大会初出場を祝い、生徒遠征募金と呼びかけた。1期から25期のOBの協力金65万円を母校合唱部に寄付した。OBも応援にかけつけた全国大会で銀賞を受賞した。これを機に04年3月27日、合唱部は県立音楽堂で110周年記念演奏会を開催した。この日全国から演奏会鑑賞に集まったOB会員は80余名。夜は、粟津温泉「おびし荘」に60余名が参加して久しぶりのOB会となった。



一同窓先輩計報一

◆南秀男氏（一中41期・一泉100周年記念名簿委員長）

名簿編纂にあたり、手作業からパソコンへの転換や一中の古い時代の不明者の探索の指揮をされた。永井正三氏（一中38期）の『金沢一中桜章健児国事殉難者芳名録』編纂の際に、バックアップされ一泉同窓会のため尽力された。氏の手になるアイデアに満ちた「同期生会だより」は、平成14年のNo. 24が最後。平成15. 6. 21逝去。

なお、同氏の死去にともない、一中41期生の運営が打ち切られ、同期会計の残金193, 330円が一泉同窓会に寄付された。ありがとうございました。また、「同期生会だより」No. 25の原稿も預かりました。「一泉32号」に掲載の予定です。

◆宮川隆泰氏（一中54期・関東一泉同窓会副会長）

4丁四高組、東大経済卒業後、三菱経済研究所で一貫して研究・指導活動、三菱総合研究所取締役役に就任。退任後も政府や経団連関係の委員を勤めた。埼玉に創設された共栄大学の初代学長、その間通産大臣賞・日本科学技術情報センター賞を受ける。1996年著の中公新書『岩崎小弥太伝』がある。平成16. 1. 23急逝。

同窓生の集い

【一中42期(昭和10年卒業)金沢一中関東十桜会】

昭和10年卒業の「十桜会」は高齢化のため2年前に全国大会は休止したが、地区の会は続け、特に関東地区は年2回昼食会を開催。今年は10月17日、小田急ハルクの加賀料理の大志満に11人が集まり歓談した。 幹事古澤英雄、久保田全俊

【一中43期(昭和11年卒業)関東金沢一中四三会】

85歳前後の年齢になると壮健は望めず、会員は8名となり淋しくはなりましたが、例年の会合は10月23日東京駅大丸内の錦城楼で開催し、関西43会(3名)より長岡氏が参加し、5名で郷土の治部煮料理を味わいながら、種々歓談し北島三郎の「加賀の女」の歌も出て、長寿を祝い再会を約し散会しました。



参加者
藤田
橋場
野村
長岡
吉村

【金沢一中47期(昭和15年卒業)十五桜会総会】

平成14年5月20日(月)金沢一中第47期の十五桜会は、鎌倉在住の半田博君のお世話で、鎌倉市由比ヶ浜辺の「KKRわかみや」に於て長寿80年の傘寿記念同窓会を開いた。出席者は生存67名中20名で、次のとおり

〔北陸〕石崎幸男、大蔵吉夫、大谷渉、北川伴次、木村久吉、中条英一、三須徹〔関東〕上野武文、小鍛冶敏雄、近藤靖、太島金治、中島章、新田正之、半田博、深見信一、福岡二郎、銚田太郎、本田尹夫、森一男、安島彌

傘寿の壁は厚くこの1年で11名も他界した。

垣田生知、加島武男、木村茂男、新谷外雄、中川清澄、中村達、鍋島基明、西島誠一、山口尚三、山本信二郎、四柳嘉孝の霊よ安かれと全員起立して黙祷を捧げた。

総会最初に順天堂大学名誉教授中島章君の傘寿以降の健康についての含蓄ある逸話に耳を傾けたが、次に同期生から自分自身の健康について真剣な質問が続いた。

引き続き大蔵幹事の乾杯音頭で宴に入った。宴の途次、十五桜会並びに会員についての現状報告があった。一中入学時には200名以上いた同期生も、戦争による犠牲者が21名あって、現在の生存者は67名であるが、うち20名が病氣と闘っているものと考えられる。今後減少するばかりだと思ふと淋しい限りである。

元東宮大夫の安嶋彌君もはじめて出席したが、松任出身の同期生たちは郷里の話題に花を咲かせ

ていた。

最後に全員起立し一中時代のあの若さに帰り声高らかに校歌を合唱した。翌朝、古都鎌倉を見学するものもあり、三々五々家路についた。(大蔵記)



【金沢一中47期(昭和15年卒業)同窓会】 LAST 十五桜会

昨年、鎌倉で「十五桜会傘寿記念同窓会」が開催されたときに、母校創立110周年の節目の年に「LAST 十五桜会」を金沢近郊で開くことになっていた。

十五桜会は、昭和15(1940)年金沢一中を卒業して以来63年間殆ど毎年、金沢、東京等のホテルや、箱根、白浜、有馬、加賀能登地区の温泉等で同期生会を開催してきたが、世話をする者も億劫となる様な高齢となり、平成15年に「LAST 十五桜会」を湯涌温泉「かなや」で開催することになった。

4月10日午後3時、母校へ東京の中島君、奈良の元田君も参加して17名が集まり、専用バスで先ず本多町の一中跡地を巡り、昭和10年入学時の頃を偲び感動を覚えた。更に新しい金沢城公園を散策し、湯涌へ向かった。pm 5:30写真撮影後総会に入り、大屋幹事の司会で大蔵幹事から母校創立110周年記念事業の趣旨説明と欠席会員の現況説明があり、了解した。乾杯の後に一人ずつ近況の報告をした。宴酣の頃、例年通り色紙《舞妓―大蔵吉夫作》の抽選に入り、特別参加の濱屋夫人がこれを射止めた。

最後に全員起立してあの若かった中学時代の気持ちに帰り、声高らかに、「金沢一中校歌」を斉唱した。

解散によって63年間の十五桜会の歴史を閉じるのは余りにも悲しく淋しいので、今後は15日にはお茶、コーヒー、昼食でもよいから、顔を合わせようではないかということになった。

同期の友よいつまでも元気で若々しくありたいものだ。

出席・石崎幸男、石橋鐮三、上田栄一、大蔵吉夫、大屋信之、北川伴次、木村久吉、島村隆、鈴木信義、中条英一、中島章、中村吉次、縄野茂信、濱屋芳次夫妻、三須徹、元田隆 (大蔵吉夫記)



【一中50期(昭和18年卒業)平成14年度同窓会】 －加賀百万石博－

10月17～18日、湯涌温泉「さかえや」出席31名、主力はバスで湯涌へ集結、「金沢湯涌夢二館」見学。午後6時総会開始、記念撮影、西坂会長挨拶経過及び会計報告、最後に勝田が一泉創立110周年記念事業について説明、募金への協力を依頼。

懇親会に入り、杯を交わしながら久しぶりの歓談を心から楽しんだ。数年会えなかった人と互いに喜寿の長命と壮健を祝い、昔を懐かしんで語り合った。最後に校歌で中締めとしたが、各部屋での二次会も盛況で、深夜まで語り合っていた部屋もあった。

翌朝9:40旅館のバスで出発、金沢城石川門前へ。ここで別れたが、多数は金沢城内見学。五十間長屋、続きの菱櫓、橋爪門続き櫓の中をゆっくり見て回った。往時通り釘を使わない「木造軸組み」の工法で再建した素晴らしい建物に感銘した。次に「加賀百万石博」会場へ

最初の「大河ドラマ館」ではNHK放映の「利家とまつ」にちなんだ展示、次の「百万石シアター館」では200インチの大型スクリーンでドラマの見せ場や役者たちを映写していた。最後の「石川まるごと館」では百万石の香り高い歴史と文化と工芸を紹介していた。

見終わって「大手門口」を通り金沢城を後にしたが、加賀百万石の基礎を築いた利家とまつ苦労と努力が理解された上に、歴代藩主が徳川幕府に武力で対抗しなかった代わりに、文化や美術工芸の面で日本一を目指し努めたことが分かり、意義深い見学になった。

その後、武蔵が辻 M'ZA の地階の「清風荘蔵楽武」で昼食、その後解散した。

浅井俊郎、池田 弘、市野孫之丞

伊藤富夫、大岩利麿、太田重雄、大森三郎、改田直己、勝田 博、茅野 正、米谷半平、小森成男、小柳 章、杉山直弘、高本豊正、橘 喬、寺田 猛、永井賢次、新田史郎、西坂弥三郎、野村庄一、藤浦鋭夫、堀 吉彦、松江重隆、宗守弘雄、室賀 共、安田俊男、安原一男、山形周一郎、山岸春生、横川政治

(勝田 博記)



【一中50期(昭和18年卒業)平成15年度同窓会】 －木曾路旅行記－

平成15年10月29日に我々50期生の仲間、16名は木曾路の南木曾路ホテルに集合しました。島崎藤村の「夜明前」の冒頭には「木曾路はすべて山の中である」と書かれていますが、山の中のホテル

にしては近代風に建てられたものでした。

宴会は西坂兄の同期生の近況報告に始まり、ついで太田兄の一泉同窓会110周年記念の詳細な状況報告、続いて新田兄の乾杯で始まりました。例年顔を見せていました常連の友も身体の不調等があったので今回出席されなかったのは残念でした。酒の酔いもほどほどに回ってくると、太田兄の威勢のよい音頭で一中応援歌が歌われ始めました。これが大きな輪となって、一同で合唱しましたが、夫々過ぎ去りし日を想起していたようです。

翌朝は先ず馬籠宿の古い街道の町並をゆっくり見ながら坂を下りました。坂の突き当たりに「藤村記念館」があり、この門構えと記念館の配置がよく出来ているのに目をひかれました。しかも、周辺の環境とよく溶け合って建てられているのは、金沢出身の谷口吉郎先生の設計の故だと知って、成程と、感嘆した次第です。

資料館も増築されて、「若菜集」をはじめとして、「破戒」「夜明前」等の藤村の原稿が展示されていました。

ついで妻籠宿に行き、ここで総檜作りの脇本陣に上がり妻籠宿の沿革を詳細に伺いました。旅の最後の奈良井宿の町並の散策を終えて、塩尻に出て、今回の別れを惜しんだ次第です。

寄る年齢なみとは言え、年々出席者の少なくなるのが寂しい限りです。来年は関西組が幹事となって設営してくれますが、諸兄の出席を願って今回の報告を終わります。(浅井記)

太田重雄、大森三郎、茅野正、小中伸夫、小堀外茂次、寺田猛、西坂弥三郎、新田史郎、野村庄一、林哲夫、深見外志治、松江重隆、宮村孝夫、安田建夫、吉岡外美雄、浅井敏郎、



【一中51期(昭和19年卒業)一桜会同窓会】

平成14年5月30～31日、山代温泉「瑠璃光」、参加人員35名。関東7名、関西6名、中部4名、地元18名で、年々会員数減少にも関わらず、出席者は前回33名に対し35名と増加で「喜寿」の会を迎えられたことは、大変喜ばしいことであった。特に卒業以来58年ぶりに出席した本保君、久し振りの西村、新保君がいて、大変充実した同窓会になった。

午後6時「天平の間」で記念写真撮影、総会は宮林幹事司会。物故者89名(同窓生214名中)への黙祷、宮会長の挨拶の後、関東代表越田君による乾杯の音頭で酒宴に入った。酒も進み、ほろ酔い気分が昂ずるにつれ、話題も気分も、一挙に懐かしい青春時代に遡り、談笑の中楽しい一時が過ぎ、あっと言う間の2時間余であった。最後に応

援団長であった吉岡君の音頭で「南征の調べ」を合唱し、次に関西代表の宮野君の三三七拍子で閉会した。別室に移り、有志による二次会では深夜に至るまで中学時代にタイムスリップし談笑が続いた。

翌日は朝食後、再会を約しお互いの健康を祈念しつつ夫々の帰路に着いた。

尚、今回体調を崩し出席できなかった川原幹事から肝煎の記念品「健康十訓入り茶碗」の寄贈があり、参加者より感謝とお礼の言葉があったことを追記しておきます。

(関東地区) 朴木春夫、中井泰一郎、越田 保、伊藤栄一、清水譲介、森 聖揚、北中久一

(関西地区) 水落 出、宮野良雄、岸本 孟、葛西義隆、中山達夫、塚本増能

(中部地区) 大森三郎、越村吉郎、本保憲作、太田一雄

(地元) 宮 太郎、野田邦夫、寺中吉造、横井 衛、荒野 昭、松本 実、吉岡 清、石田 豊、飯森又郎、清水三外、島田徳三、新田 勉、西村茂男、室谷与三松、中野利男、竹田徳太郎、園部哲三、宮林和彦



【一中51期(昭和19年卒業)一桜会】

“老いて益々頑張る ZO”

平成15年5月29～30日、湯涌温泉「湯の出」、26名参加(関東：3、中部：1、地元：19)

恒例により記念写真撮影のあと、宮林代表幹事の司会により懇親会が進められた。初めに今年に入って東出精一君、太田一雄君、中山達夫君の3氏死亡の旨が報告され、物故者94名の冥福を祈り黙祷を捧げた。今回は久しぶり参加の安藤良一・阿部正一両君の歓迎紹介があった。

関東地区の越田 保君が、緊急の用件で不参加になった宮会長に代わって乾杯の音頭をとり酒宴に入った。毎回のことながら、杯を重ね、ほろ酔い気分が昂るにつれて、会場のあちこちで起きるひときわ大きい高笑い談笑の和は青春記に培われた絆の太さを実感する。同窓会ならではの微笑ましい情景である。宴も司会の進行よろしく、自信ある面々のカラオケや、島田徳三君の渋い歌声と巧みな体のこなしを調和させたユーモアたっぷりの仕草等で大いに賑いあつという間の2時間余であった。

最後は、越田保君のリードで応援歌を合唱し、関西地区の宮野良夫君の音頭による万歳三唱で閉会した。2次会も深夜まで談笑が続いた。翌朝は朝食後、幹事一同でバス組を見送り解散した。

《関東地区》朴木春夫、越田 保、中井泰一郎、
《関西地区》水落 出、岸本 孟、宮野良雄、
《中部地区》大森三郎、
《地元》野田邦男、寺中吉造、横井 衛、
金森 義、飯森又郎、松本 実、安藤良一、
中村 清、阿部正一、小畑四郎、清水三外、
島田徳三、木下純治、宮林和彦、川原善一、
中野利男、室谷与三松、竹田徳太郎、園部哲三



【一中54期(昭和22年卒業)同窓全国大会】

金沢一中第54期会全国大会は10月13日午後3時からグランドホテル松任で開かれた。

全国より56人の同志が元気な姿で出席。山本道生君の司会で進行。物故者94人(同期生は308人)の冥福を祈って、黙祷した。大会にうつり、世話人代表として越馬純一君が挨拶、つづいて関東代表の水田正男君の朱木誌8号の刊行を含む、さらに関西代表の山田善一君の近況報告があった。また多忙の中、かけつけてくれた同期の参議院議員沓掛君の喜びの挨拶、当ホテルのオーナー板尾達雄君の歓迎の言葉があつて、関西で長年多大な世話を頂いた宮崎欣彌君の乾杯の音頭で懇親会に入り、久しぶりに酌み交わしながら旧交をあたため、楽しい歓談がつづいた。その中で故人を偲ぶ歌などが披露され、さらに数々の応援歌を懐かしく歌い、盛り上がった。

最後に元泉丘高校長だった宮崎光二君の「健やかで余生を送り、次は喜寿での大会を」と、ほのめかしながらの一本メでなごやかなふんいきの中に幕を閉じた。

このあと積もる話で二次会や囲碁に親しむ同志もあり、様々な話題など深更にまで続いた。



【一中55期(昭和23年卒業)金沢一中55会】 卒業55周年記念同窓会

金沢一中55会は、9月10日辰口温泉の亡き級友松崎邦弘氏の生家「まつさき」で、午後6時より盛大に卒業55周年同窓会懇親会を行った。

これより先12時半より11名が元気に白山カントリ倶楽部で親睦ゴルフコンペを行い懇親会に合流した。

今回健康上の理由で辞任を申し出た松本進会長

の意向を受けて、新会長に川北篤氏を全員一致して推挙した。川北新会長の挨拶後61名の物故者への追悼黙祷捧げ、幹事の会務報告で級友たちの動静を伝え、関西代表で関西一泉同窓会会長の片瀬貴文氏の乾杯音頭によって始まった。

関東、関西、中京地区からも8名参加、総勢32名が語り合いまた元気の意見を開陳した。宴半ばで、出口善人氏、中橋寿雄氏、かつてのリーダーの旗振りに応援歌を叫び、関東代表の西田芳氏の発声による万歳三唱で幕を閉じた。

久し振りの再会とあって、深夜まで別室で語り合う姿も見られた。出席者は以下の通り。

池田健喜智、石川三郎、上田総一郎、大窪外慶、太田忠夫、沖山滋人、乙村 董、笠松茂雄、片瀬貴文、金井一郎、川北 篤、岸本督夫、紺谷 晋、斉田直行、茂村 彰、島 厚夫、清水源良、杉山直男（ゴルフのみ）
副田清夫、常崎博夫、経田政人、出口善人、中川了一、中橋寿雄、西川 晃、西田 芳、星 孝次、宮岸礼夫、三輪泰一、山田 浩、吉川正美、横井 健夫妻（金井記）



【泉丘4期(昭和27年卒業)50周年記念総会】

平成14年9月8日、山代“天祥”

卒業は1952年(昭和27年)なので、在校時と合わせて53年間、半世紀余りのお付き合いである。実は本会開催の申し合わせは5年ごとであり、前々年の12年9月にも栗津“法師”でやっていたが、諸般の情勢の変化で会える機会に集まろうと、‘待ち5年’の趣旨を変更し間に挟んだ次第である。

3年間の在校者456名、現存者386名。私共の幹事諸氏は大変マメなので同窓生をかなりつかんでいるが、芒々50余年の間では若干の不明者が出ている。

今回出席者85名の男女の内訳は、男子51名女子34名である。4期生会は本部を金沢に置き関東、関西、中部の支部を持つ。今回も各支部はもちろん全国各地より馳せ付けて戴き盛会であった。

一夕の歓はまことに楽しく、その昔の太郎花子のお顔も次第にハッキリし、多感な時期を共有した者同志の貴重な触れ合いかみしめた時間であった。多芸な中村外茂治君の狸々の舞や、金子豊君の応援団長等にぎわしく、会長職を十数年余りご苦勞を頂いた鰐淵君の次を受けた四十萬谷会長の音頭で和やかにべた。二次会も同宿で行ったが古稀に近い古狸ばかり、どこまで本当なのか珍談続出し夜半までにぎやかなことであった。4期生健在である。追記として今総会の実行委員は昨年12月より数次の会合を重ねた。世話された諸兄姉の

勞を多としたい。

(中川記)



【泉丘6期(昭和29年卒業)沖縄諸島巡り】 —黒百合の塔で平和の誓い新たに—

卒業年次にちなみ名付けて「ふくせん(二九泉悠々会)は、さる2月27日から3泊4日の旅程で、沖縄本島と石垣島、西表島、由布島、武富島の八重山4島を訪ねました。ハワイ諸島、オーストラリア、台湾に次いでの旅です。

参加者は30人、石川勢を中心に関東、関西からも駆け付け、まずは石垣島で合流し、再開の歓びを分かち合った。卒業以来初めて顔を合わせるといった面々もいて肩をたたきあったり、握手を繰り返したりと、出発早々から大変な賑いよう。

沖縄は、この時期、まだ肌寒い本州とはうってかわって、まさに初夏の陽気。コバルト・ブルーの海、澄み切った空の青、ビーチの白砂に、気分は爽快そのもので、旅のロマンにひたった。

旅程は、われわれの年齢にふさわしいように、あらかじめ、“ゆったり”プランを組んだだけに、行く先々で、琉球文化の一端を心に深く刻み込むことが出来たと思っています。

その一方で、在日米軍基地の7割が沖縄に集中している姿に、複雑な思いを抱き、また、先の大戦で国内で唯一地上戦となった沖縄本島の南部戦跡を直視して、平和の尊さをかみしめました。そのほか、本島では、摩文仁の丘に建つ「黒百合の塔」(沖縄戦線で戦死した石川県出身者の慰霊塔)で、花束と線香を手向け、合唱してまいりました。これも、今日に生きる私たちの“つとめ”と思ったからです。

あっという間の4日の旅でした。最後はやはり、母校での数々の思い出や、参加できなかったクラス・メイトの近況についての話で、おおいに盛り上がりしました。ホテルでの宴席では、往時の応援団長の号令よろしく、校歌を声高々にうたいあげ、青春を我が身に引き寄せたりしたものです。

「同期の桜」は「かけがえのない宝」だと改めて感じとった次第です。来年は世界自然遺産で知られる『屋久島への旅』と早々に決まりました。まずは、健康が肝心、屋久島での再々開が待たれます。

(白井記)



【泉丘16期(昭和39年卒業)同窓会】

平成15年3月15日、金沢全日空ホテル3階鳳の間、恩師7名ご招待、同期生77名参加、

我ら16期同窓生には、桑原豊衆議院議員と、木本利雄県会議員がおり、両君の後援会：「泉丘16期の会」という組織が地元石川・金沢を中心にして別にあり、こちらの方でよく会合を開くので、つつい16期全体の同窓会は平成5年の開催以後開いておりませんでした。

それから10年経ち、遠方の方からも同窓会開催のリクエストが多く寄せられたことから、幹事山本武生、八田伸一、小杉俊明諸兄をはじめ当日受付係等、同窓生多数ご協力により、この度の開催の運びとなったものです。

7名の恩師、清水隆久、浜名久雄、楠禎一郎、普神貴行、安高 徹、山崎 裕、高橋 健先生に参加いただき、我々同窓77名とともに大いに盛り上がりしました。諸先生のお元気なこと……？久しぶりに先生方の名講演を延々とお聞かせ頂き一同感激も一しお！！の思いでした。

10年ぶりに、また卒業以来初めて顔を合わす遠方の友もいて、各テーブルでの話はつきず……大盛会のうちに、最後は応援歌の合唱と全員へのエールで、再会を約しての中締めとなりました。

(代表幹事広瀬靖久記)

**【泉丘10期(昭和33年卒業)泉寿会新年会】**

03年2月15日、金沢市のKKR ホテル金沢で臨時総会と恒例の新年会を67人出席で開いた。

臨時総会は役員改選が主で、会長に亀田亮弥、副会長に若林茂樹(次期会長)、浅香以都子(留任)、事務局長に笠間晴隆の各氏を選んだ。任期2年間。

懇親会は会員の詩吟や仕舞が披露された。ホテル内のバーで二次会、片町での三次会と夜のふけるまで飲み歌い、懐かしい青春時代にもどり話に花を咲かせた。

関東の泉寿会は、これに先立ち1月26日、東京錦糸町のロッテプラザで新年例会を開いた。30人出席で、金沢からは久野絹枝、植生明子の本部役員2人が参加した。

(中山一郎記)

【関西泉寿会】

03年4月12日、神戸メリケンパークオリエンタルホテルで開催、金沢・関東からの参加者を含め29人が出席。会計報告承認の後、懇親会に入り、青春が蘇る楽しい一時を過ごした。場所を変え、グッドデザイン賞を受賞した斬新な船体のパルデメ

ール号で神戸港～明石海峡を遊覧、震災から復興した神戸を海から眺めホテルに戻り、二次会。久しぶりに学生時代に戻った気持で時のたつのも忘れて、友情を温めた。会長・堀内寛司記。



(本部・関東の写真は04年分)

今一度、人生に青春を！

亀田 亮弥

皆さんお元気ですか。どういう風の吹き回しか不肖私が、この2003年4月から泉寿会の前会長の高橋威君からバトンを受け継ぎ、泉寿会のお世話をするようになりました。新役員共々よろしくお願ひします。

我が10期生の「泉寿会」は、大変まとまりのよい会として一泉同窓会の各期の方々から羨ましがられていますが、これもこれまでの歴代の役員の方々に骨身を惜しまずお世話をして頂いた賜物です。心から感謝したいと思います。

ところで、同窓会の2次会、誰かが舟木一夫の「高校3年生」を唄う。あちら、こちらのテーブルから呼応して大合唱の輪が広がる。もはや全員が「高校3年生」にタイムスリップして、一挙に座は最高潮に達する。この時ばかりは、彼の顔も彼女の顔も、そのしぐさまでも当時のまに見える。何の利害関係もなく、しがらみもない。心底青春を取り戻した瞬間だ。

我々の青春は、すべて我々が母校「金沢泉丘高等学校」の中にあったように思います。日本全土が敗戦の廃墟から立ち上がり、ようやく世の中も落ち着きを取り戻して、いよいよ新しい日本の始まりを予感させる時代でした。一人ひとりが、人生において最も澄み切った目で将来を見据え、「夢」と「希望」、そして熱い「志」と温かい「心」がありました。

初めて異性に興味を覚えたのもその頃なら、勉強やスポーツに、ひた向きに没頭できたのもその頃です。まさに多感な青春時代を、今思い返しても、よい時代により環境で過ごせたように思います。

あれから45年の歳月が経ち、今、人生の折返し点に立ってみますと、いつの間にかわが子も独立して、話題も孫のこと、趣味のこと、健康の話が断然多くなってきました。しかし、一方で、企業や組織の重石もとれ、子育てからも解放されて、人生路の旅人として、今一度青春を取り戻し、悠々と人生を謳歌している仲間もいます。またこれから…と余生の設計に入っている友も増えています。

これまで60数年やっているうちに、皆さんはそれぞれ人生の達人におなりでしょう。普段の生活の中で同好の仲間の交流の輪が広まれば、それも又楽しいことだろうな…と思いつき、「悠々ライフ」第一報をまとめてみました。

ここに紹介させて頂く方々は、これまでに事務局が承知している範囲の情報をとりまとめたものです。また「こんな仲間もいるよ」という情報は、自薦他薦大いに結構。どんどん事務局へお寄せ下さい。次回に紹介させていただきます。

最後に、これまで何らかの事情で泉寿会に縁遠かった方々に願います。何となく懐かしく、かの君、かの友に会って見たいなど思われた時には、是非「泉寿会」に足をお運び下さい。

お互いの健康を確認し合い、今一度「人生の青春」を取り戻しましょう。

『この時代に生きて』村本喜和子(通信制28期)

独裁者フセインイラク大統領とブッシュ米国大統領の戦いのために、イラク国民だけでなく、他国の人々をも巻き込み、多くの尊い命が犠牲になっている。

テレビでイラクの大学入学試験風景が映しだされていた。マスコミの質問に対して、フセイン政権は終わったが、今は以前には無かった子供達の身の代金誘拐事件が多発しているの、女子学生

の一人歩きは不安で、ほとんどの親が付き添っているとのコメントだった。受験を終えて出てきた女子学生たちは「戦争中は防空壕の中でローソクの灯りで勉強しました。受験中も外で頻繁に銃声が鳴り響き落ちていて考えることが出来なかったが、受験できたことがとても嬉しい」と答えていた。

これは、日本の戦時中と戦後、60年前の十代の私の姿を思い出すすすがにもなった。戦争には負けたが、昭和23年に新制の泉丘高校に通信制課程が設立されたことを知り、何時の日かその門を潜れることを夢見た。それから30年後の昭和53年、43才にして念願が通い、入学を許された。

経済は右肩あがりだったが、まだまだ高校に行きたくて行かれない若者も多く、紡績会社で働きながら学んでいた仲間が大勢いた。入学して間もなくの頃、ホーム・ルームの時間に、十代から五十代までが一緒になって、我が家の竹藪で共に汗を流し掘った竹の子の料理を頬張りながら、勉強の仕方や、行事の役割分担を真剣に話し合った。秋の合宿スクーリングでは、白山青年の家で先生方と、昼は人間ピラミッドに挑戦し、夜は人生論を語り合っ、卒業するまでの7年間、年を忘れて学園生活を満喫した。今思い返し、何と幸せな時間だったんだろうと思う。貧しくても、こんな生活が出来るとは想像すらしていなかった。仕事を終えての勉強は辛かった。しかし、楽しかった学園生活は生涯忘れられないほど大きな喜びであった。この喜びは、戦争・戦後の不安な生活を体験したからこそ感じられるのだと思った。だからといってあの悲惨な戦争はご免である。何十年経っても国を憎み、人を恨み続ける悲しさを、子供達に経験させたくないと思う心は、皆同じであろう。

これからも、各国でいろいろな内戦や紛争が起こると思われるが、戦争放棄の憲法を持っている我が国だからこそ話し合いの解決を願っている。

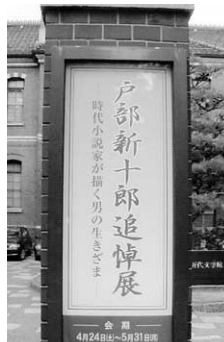
「戸部新十郎追悼展」

於石川近代文学館(2004年4月24日～5月31日)

大正15(1926)年生まれ、平成15(2003)年8月13日逝去。一中52期の戸部氏は新聞記者から作家に転身、時代小説を中心に多くの著書がある。

「安見隠岐の罪状」で直木賞候補に。一泉剣友会の有力メンバーでもあった。

「兵法秘伝考」「忍者と忍術」のように剣術・忍術の考証でこれほど網羅的、しかも詳細を究めた人は二度と出ないといわれる。練馬の住居の近所では、作家であるより剣道と居合道の先生であると知られていた。一泉文庫へは著書を出されるたびに送って頂いていた。



浦 茂氏(一中34期)の御下賜刀

前関東一泉同窓会会長の浦氏所蔵の日本刀については一泉30号で紹介済み。2004年4月、その「御下賜刀」は同氏の長女宮田宏子さんが、石川県歴史博物館に「軍事機密―終戦業務」日誌ともに寄贈された。当時、陸軍中将前田利為侯爵よりの剣梅鉢紋の入った指揮刀(サーベル)も同様。

氏は敗戦直後、米軍当局者を説得し、美術品としての日本刀を、没収並びに海中破棄から体を張って守った。一方、三馬の実家から没収され、行方不明になっていた氏自身の「御下賜刀」が、41年もたって、シドニーで再発見されたことにも、その因縁を感じる。浦氏は平成13(2001)年11月18日逝去。



‘兼六園菊桜と六桜会’

校庭の西北隅、図書館の運動場側に‘兼六園菊桜’が6本ある。例年4月中旬に葉を出し下旬に咲く。今年は19日の午前中に咲き始めた。花卉が250枚以上あって、一輪一輪、薄紅の花は美しくふくよかで天平の美人の如くである。なのに、校内でこの存在を知っている人が少ない。

昭和36年に「六桜会」（一中38期）が、卒業30周年記念に、その前年に設置した「逆流」像を野球やサッカーボールから守るような配置に植樹した。現在「逆流」像は中庭奥中央へ移転し、その跡は校庭内を巡る500m ランニング道路の一部になっており、写真のように快適な木の下道を提供している。

近年、6月と9月にアメリカシロヒトリに無残に食い荒される。それでも、年中キジバトの番いが棲み着き、オナガの家族も時々巡回していく。冬場にはシジュウカラ、エナガらの



小鳥が幹に生みつけられている昆虫の卵などを探しに日に何回もやって来る。降雪すると幹回りの黒い土の出ているところにツグミが来てキョトンと休息している。たくさんの生物にすみかと餌を提供しているのがよく分かる。



六桜会の皆さんは、90歳でお元気だが、会としての活動はやめられ、六桜会費の残金506,499円を一泉同窓会に寄付して下さいました。同窓会会計に入れ、事務局のコンピューター買替えと、校内緑化や桜の管理に使わせて頂きます。

会の代表であった永井正三氏は、かつては毎日新聞の記者。スポーツ毎日取締役退任後は金沢で悠々自適。一泉百周年のとき『金沢一中・桜章健児国事殉難者芳名録』を編纂。平成11年逝去。井上靖とは、四高、新聞記者共先輩後輩の関係で深い交流があった。シベリアから引き揚げてきた正三氏の安否を問う井上靖からの手紙が見つかり、ご遺族が、石川近代文学館へ寄贈された。井上靖は手紙をしたためなかったことで有名。その意味でも非常に希少なものである。

一金沢市街図（池善古書店発行）

1937（昭和12）年に完成した金沢市街図は香林坊にあった古書籍店「池善」発行のものである。地図の製作者は「池善」の店主池亮吉氏（一中20期）。旧町名や小路名は一目瞭然で、半世紀前には至る所に残っていた。人の背丈ぐらいの低い土塀や、陰影の濃い木造りの町並をまぶたに浮かべる年寄りも多い。（ペン先は、一中・本多町校舎跡地）



金沢市街図と父 斉田(池)直行（一中55期）

父は店の仕事の合間に、自転車の荷台に道具箱を乗せて測量にでかけた。道具箱には測量に必要な道具が入れてあって、わが家ではこれを測量箱と呼んでいた。距離は自転車のペダルを踏む回数から計算した。曲がり角では自転車をおり、測定器を道具箱の上にすえて、角度を測った。この測定器は父の日曜大工製で、回転台に双眼鏡をはめ込み、角度を読む目盛りがついていた。金沢は城下町で上り下りと、曲折がはげしいので、測量は

大変な努力を要したと思う。

帰宅すると製図版の上で測量結果を製図し、烏口で墨入れをして原紙を作り、大きな紙に青写真焼き付けをした。これは校正用だったようだ。青写真も自家製であった。大きな日光写真の木枠を作り、道路をはさんだ向いの内国貯金銀行の建物に立てかけて日光で焼き付ける。その後タン製の筒の中でアンモニア現像をした。

記録によると測量は昭和9年8月に始まった。12年に完成した発売前の金沢市街図が、内務省の陸地測量部の検閲に合格したといって父は喜んでいた。陸地測量部などという名前を覚えているのはそのせいである。

戦争の進展とともに、昭和15年9月に地図の販売が規制され、翌16年3月には広坂警察署の特高から地図の任意提出を求められ、ついに店頭販売禁止となった。戦争中だからの措置だが、原子爆弾でけりをついた戦争の勝敗に、父の作った地図は関係がなかった。

地図は一度作ったら終わりではなく、道路が変わるたびに改訂して行かねばならない。父の改訂のための測量は、亡くなる2年前、昭和39年まで続いた。今私の手元に昭和22年に出版されたものがある。縮尺は1万2千分の1、表紙に尾山神社の山門がデザインされている。1枚の地図の中に父の創意工夫と情熱があふれているのが、私にとっても貴重に思えるのである。

※「金沢市街図」は金沢玉川町の市立図書館でコピーしてくれます。

平成14・15年度一泉文庫寄贈・購入本

書 名	著 者 (編)	寄 贈 者 (購入)
石川県人名事典 現代編 八	石川出版社	購入
千虚、一実に如かず (続)	土肥孝治 (一中58期)	土肥孝治 (一中58期)
たかまつ物語―地域を担った人々	高松町―瀬戸博夫編	高松町
科学風土記―加賀能登のサイアンス	石川化学教育研究会	米田茂 (泉丘24期)
朱木―第8号	金沢一中54期―同期朱木会	金沢一中54期―同期朱木会
BSEの化学―金属イオンと神経疾患	西田雄三 (泉丘14期)	西田雄三 (泉丘14期)
「その頃、私は……」戦中回想録	東京・四四桜会編	東京・四四桜会
代數幾何學特論・空間三次曲線論	岡田一男 (一中33期)	購入
自然幾何學	本部 均 (一中32期)	購入
確信の手ごたえ	山野ゆきよし (泉丘32期)	山野ゆきよし (泉丘32期)
戦中戦後・私の20世紀回想	浅井敏郎 (一中50期期)	浅井敏郎 (一中50期)
片翼だけの天使 片翼だけの天使 (続)	生島治郎 (一中57期) ―小泉太郎―	購入
君は殺し屋	生島治郎 (一中57期)	購入
血と絆	生島治郎 (一中57期)	購入
碎かれる	生島治郎 (一中57期)	購入
石川県ってこんなところ	金沢経済友会編 瀬戸薫 (元教諭) 他執筆	渋谷亮治 (一中54期)
昭和の肖像	広論社出版局編 水田清風 (元教諭) 執筆	水田清風
出会いはドラマ	北野生涯教育振興会 関 明 (一中55期) 執筆	関 明 (一中55期)
名探偵ただいま逃亡中	生島治郎 (一中57期)	購入
海岸給油所	紺谷 猛 (一中58・泉丘4期)	紺谷 猛 (一中58・泉丘4期)
老舗のおかみ 金沢・加賀・能登	北陸中日新聞社・明石 勲	明石 勲 (泉丘16期)
ハーデイ研究	大澤 衛 (一中29期) 編	購入
トマス・ウルフー20世紀英米文学	大澤 衛 (一中29期) 編	購入
THE RETURN OF THE NATIVE	大澤 衛注釈 (一中29期)	購入
金沢市の室町史料	室山 孝 (泉丘19期) 石田文一 (泉丘33期)	室山 孝 (泉丘19期)
救済の世界	高木幹太 (一中52期)	高木志門 高木幹太氏子息
イエスとはどういうお方か	高木幹太 (一中52期)	高木志門 高木幹太氏子息
ドストエフスキーとキリスト教	高木幹太 (一中52期)	高木志門 高木幹太氏子息
寛太郎物語・猫と過ごしたメノポーズ伊東千佳子 (泉丘17期)	伊東千佳子 (泉丘17期)	
宇宙玉ねぎ 池田星爾Ⅱ 詩集	池田星爾 (泉丘6期)	池田星爾 (泉丘6期)
泉寿会還暦記念アルバム	泉寿会 (泉丘10期)	泉寿会 (泉丘10期)
諦めていた症状が 「健友館整体術」で治った！	越田 昭 (泉丘17期)	越田 昭 (泉丘17期)
技術倫理 1	飯野弘之 (泉丘4期) 記	飯野弘之 (泉丘4期)
新・技術者になるということ	飯野弘之 (泉丘4期)	飯野弘之 (泉丘4期)
昭和の戦争責任論 (昭和天皇と戦争責任論)	藤井政美 (一中46期)	藤井政美 (一中46期)
日本の産業遺産300選 I	日本産業考古学会編 松田耕 (泉丘3期)	松田耕 (泉丘3期)
ヴァイオリンの栄光	野田彰 (一中58・泉丘4期) 記	平石英雄 (一中41期)
O 脚が美脚に変わる	越田 昭 (泉丘17期)	越田 昭 (泉丘17期)
西村曾青遺文集―本田一杉 (一中21)のこと	本田泰三編	本田泰三 (本田一杉子息)
簡素論研究―毎田周一 (一中31期) 師研究	田中健一	購入
毎田周一師讃仰―生命の宗教	江川清二	購入
土方和雄追悼集	土方和雄 (一中54期)	宮川隆英 (一中54期)
心の謎を解く150のキーワード	小林 司 (一中53期)	購入
両手があったら一本は他人のため	越田 昭 (泉丘17期)	越田 昭 (泉丘17期)
「まんが」感動！整体師への道	越田 昭 (泉丘17期)	越田 昭 (泉丘17期)
回想録―愛と死と永遠と	山本正治 (一中39期)	朝山洋子―山本正治息女
耳よりな鼻し 金沢大学医学部から	古川内監修 三輪高喜29期・滝口哲也27期・作本真29期・伊藤真人33期・丸山裕美子執筆	

一百歳の長寿一

石橋一郎(令邑)先輩 (一中29期)



金沢一中29期と言えば、なき木村珪二・大沢衛氏と同期だが、1904年1月生まれの石橋一郎氏は、鎌倉の自宅で、悠々健勝で百歳の今年を迎えた。

氏は、邦楽(尺八・琴・三味線)の作詞者として活躍。令邑は都山流尺八の竹号。

この度、「一泉文庫」に詞付きの邦楽の譜面を21冊贈ってくださった。古いものでは、昭和6年(1931)作詞で、戦後、箏曲家宮城道雄氏が譜を付けた「高麗の春」があり、長年にわたる旺盛な作詞活動がうかがえる。

高麗の春

石橋令邑作歌
宮城道雄作譜

冬籠り 春さり来れば 高麗の山 よそはいこらす
白妙の 雪もいつしか むら消えて 末は合はんと
雪解水 流れてやまぬ 山の峽 儒臣の夢も
滅びては 草萌えしるき 墓どころ 里に出づれば
いさゝ川 えにしも知らず 行き通ふ 石橋渡る
鄙人に 隔てもおかぬ 御恵みや

“もみの木”は残った

社会教育センターと観光会館に挟まれた本多町の通りを広坂の方へ向かうと、自動車道へはみ出た形で100年ほど経た一本のもみと三本の松がある。左に1メートルほど低く藩政時代からの狭い旧道が残っていて、50メートルほど続く。境界を示す古い石垣も見られる。

これらは金沢一中の本多町校舎の名残りで、藩政時代は家老本多家の屋敷があった所。1897(明治30)年、一中が旧新道から移りここに校舎が新築されたとき、周辺の緑とともに残された。

以来、1937(昭和12)年に泉野の現在地に移転するまで約40年間、一中生から「本多の森」と親しまれ、本多町校舎で学んだ荒川宏、石崎皓三、

堀口渉の各氏(一中45期)も、森のシンボルとしてこのもみの木をなつかしむ。

これらの樹木は、1950年に金沢市が広坂～桜橋間の道路拡張をした時も残された。中警察署の話ではこれが原因で事故が起きたことはないとのこと。毎年創立記念祭皮切りの一泉



行列は、一中の運動場であった観光会館前のもみの木を出発点とし、泉野原頭へと進む。

『一泉名簿』販売中!

1部3,500円(送料込み4,000円)

一泉同窓会では、一泉創立110周年を記念して『一泉名簿』を発刊しました。平成15年度現在の総会員35,353名(内物故者7,122名)が掲載された、1186ページの大冊です。一中・泉丘・通信の各名簿委員27名が、前発行(創立100周年)から10年間の異動を含め、詳細な編集作業に取り組んで発行にこぎつけました。1部3,500円、(送料込み4,000円)で販売中です。一泉事務局までお申し込み下さい。

〈編集後記〉

昨年は「一泉」31号を出すゆとりがなく2年分を溜めてしまいました。お許し下さい。

「一泉」の題字揮毫の坂野雄一氏(一中54期)が平成14年9月19日に逝去されました。旧金沢市内の各所にたっている旧町名を刻んだ黒御影石の碑は氏の筆によるものです。

金沢一中55年間の様々な人物の事跡はくめども尽きませんが、時間の経過とともに消えてゆくものがあるのが残念です。可能な限り残しておきたいものです。

金沢泉丘高校も55年を経過し、初期の卒業生が70代半ばに達しようとしています。これから多数の同窓生たちが放った光芒が歴史のかなたに見えてくるのではないのでしょうか。

この意味で「一泉文庫」は後の世代の者が過去を知るだけでなく、過去から未来につなぐ位置にいる自分を知る貴重な情報源であります。出版物をお寄せ下さい。文庫だけでなく、分野別の資料ファイルも集積しております。一泉会員関係の資料がありましたらお寄せ下さい。「同窓生の集い」ほか、ご寄稿をお待ちします。一泉へのご協力を今後共よろしく願います。

「一泉」編集室

正村 健三(泉丘4期) 浅香以都子(泉丘10期)

小林 弘子(泉丘12期)

題字・坂野 雄一(一中54期)